

長野市におけるSDGs取組み方針について



- Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称
- 2015年9月の国連総会で採択(2030アジェンダ)
- 2016年～2030年の15年間での達成を目指した国際目標
- 三層構造(17のゴール、169のターゲット、232のインディケーター)
- 経済・社会・環境の三側面の統合的な取り組みを目指す。

◆ 持続可能な開発目標 (2016～2030)

Sustainable (サステイナブル=持続可能な)

Development (ディベロップメント=開発)

Goals (ゴールズ=17の目標)

2. 社会背景・経過

地球規模の課題はグローバルに連鎖して発生し、経済成長や社会問題にも波及して深刻な影響を及ぼす。



世界全体の経済、社会、環境の三側面を調和させる統合的な取り組みが必要



2015年9月、先進国も開発途上国も共に取組む持続可能な開発目標(SDGs)の国連採択



国の動き

- 2016年 「SDGs推進本部」設置(5月) ……内閣総理大臣を本部長、全閣僚が構成員
「SDGs実施指針」策定(12月)
 - 2017年 「ジャパンSDGsアワード」創設
 - 2018年 「SDGsアクションプラン2018」……SDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業など
 - 2019年 「SDGsアクションプラン2019」……G20サミット, TICAD7, 初のSDGs首脳級会合等
 - 2020年 東京オリンピック・パラリンピック
 - 2025年 大阪・関西万博
 - 2030年 SDGs目標年度
- } SDGs五輪、SDGs万博として計画

気候変動
自然災害
感染症
グローバルな金融・経済危機
紛争
エネルギー問題
貧困格差 etc



3. SDGsの推進について

1 基本的な方向性

- 長野市は、国の「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」の趣旨を理解し、国際社会全体の課題解決のため、SDGs達成に向けた取組みを推進する。
- 国の「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」(6/21閣議決定)で、第二期総合戦略の新たな視点として示された“SDGsを原動力とした地方創生”に積極的に取り組む。
- SDGsの推進により、今の市民も、未来の市民も住みよい持続可能なまちづくりを実現する。
- 長野から世界へつながる扉として、SDGsの要素を長野市総合計画をはじめとする各種計画に取り入れ、地球規模の課題解決策に足下から取り組む。
- SDGsをコミュニケーションツールとして活用し、様々な関係者との連携を促進する。

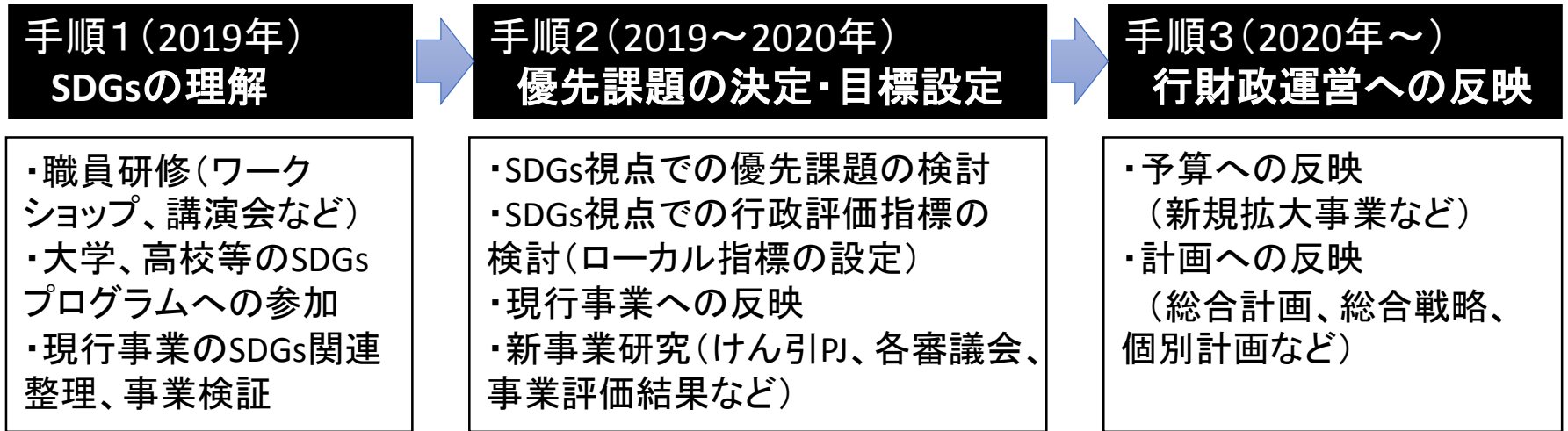
<取り組む理由>

● SDGsに取り組む姿勢が“選ばれる都市”の条件となってくる。

- ・インバウンドの高まり・・・環境意識が高い外国人観光客の増加
- ・エシカル消費の広がり・・・環境保全や地域・社会に考慮した消費行動
- ・ESG投資の拡大・・・投資家の判断基準の変化(環境や社会に配慮する会社に投資)
- ・ガバメントクラウドファンディングの広がり(自治体の新たな資金調達手段)・・・社会的に意義あるPJか
- ・企業・経済団体の積極的なSDGs推進方針・・・社会貢献、企業価値向上、持続可能な事業活動

※ESG投資:環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)

2 推進手順



3 推進体制

- 当面、部局横断の推進体制として「**総合計画推進本部会議**」を活用(事務局:企画課)
- 具体的取組みの推進体制は、SDGsと特に関係の深い**関係課長会議**を設け検討
⇒SDGs関係課長会議、分野ごとの推進体制、担当レベルの作業チームなど方針検討

4 関係団体等との連携

- 国・県との連携(信州SDGs推進プラットフォーム(県)などへの参加)
- 市民、NPO、企業等との連携(情報共有、相乗効果)
- 大学、高等学校等との連携

＜年度計画＞

年度	導入手順	推進体制	関係者連携	普及促進
2019 (R元)	関係性整理、既存事業検証	役割整理・体制検討	産・学・官・金	職員・市民・団体
2020 (R2)	新事業研究、実施計画反映	↓	↓	↓
2021 (R3)	後期基本計画検討	↓	↓	↓
2022 (R4)	後期基本計画開始	↓	↓	↓
2023 (R5)	↓	↓	↓	↓

＜2019年度の予定＞

	研修	講演	協働	既存事業	新事業研究・計画	予算
6月	SDGsカードゲーム				・経済成長けん引PJ ・各課検討	
7月			県立大ソーシャルイノベーションサミット	SDGs関連整理、事業検証	↓	
8月				↓	↓	R2予算要求
9月	夜間講座			↓	↓	
10月		講演会	環境こどもサミット	↓	↓	
11月				↓	↓	
12月		講演会	環境パートナーシップ会議	↓	↓	
1～3月		講演会		R1行政評価	↓	R2予算案 R2予算議決

<当面の課題>

①職員のSDGs理解を深める

⇒職場研修など全職員向けの研修機会の検討、ガルーン掲示板を活用した情報共有

②総合計画等への反映に向けた作業

⇒現行事業のSDGsゴール分類(後付けマッピング)

具体的取組みの推進体制の整備 → 関係課長会議にて検討

優先課題、ローカル指標の検討、設定

SDGsの視点を加えた現行事業の見直し(先付けマッピング)

SDGsの目標達成に向けた新規事業の検討(先付けマッピング)

③予算への反映(できるところから)

⇒SDGsを新規拡大事業予算要求の判断要素の一つとする。

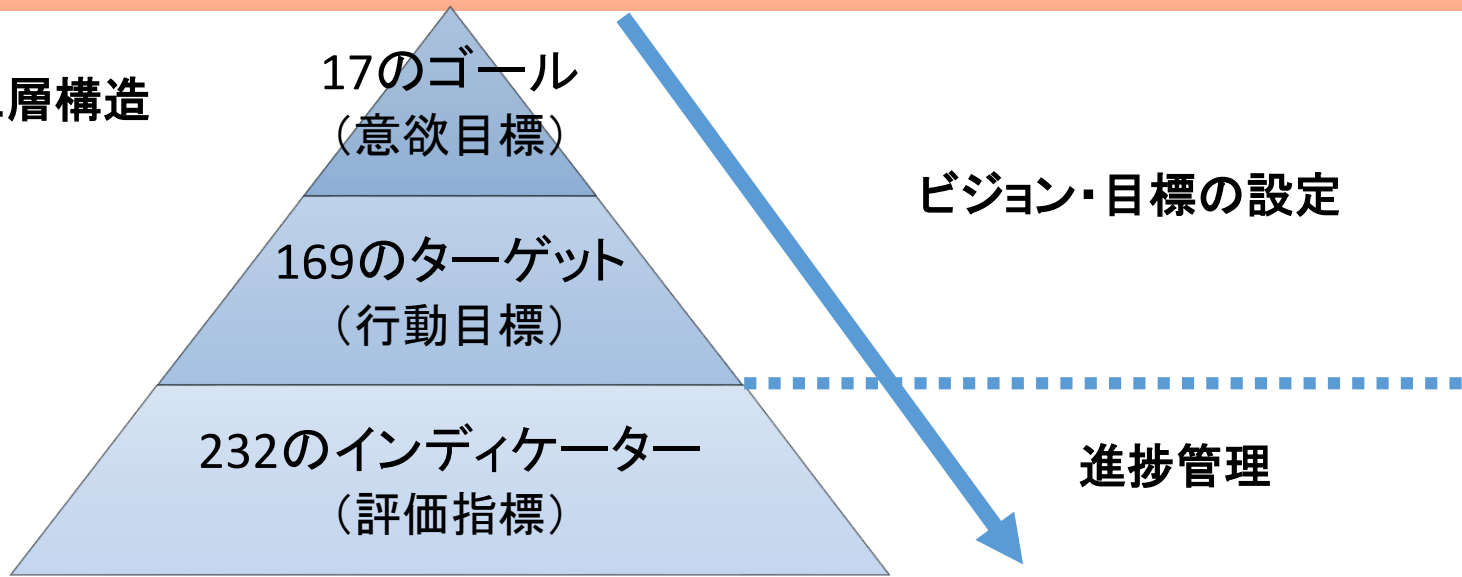
【令和2年度予算編成における重点テーマ】(7/3総合計画推進本部会議にて決定)

➤ 新規拡大事業の予算要求について(抜粋)

新規・拡大事業の内、YOBOU事業に加えて、本格的な人口減少社会、Society5.0など時代の変化を先読みし2040年の長野に向けて先手を打つ先進性の高い事業については、シーリング枠外での要求を可能とする。

- (先進性のイメージ)
- ・地域課題解決を図る新たな仕組み(イノベーション)の活用
 - ・市民生活の質の向上を図るための先端技術の活用
 - ・地方創生のためのSDGsの理念に沿った新たな事業

➤ 三層構造



➤ 3レイヤーによる整理

- 経済・社会・環境を柱とする枠組み
- 基軸としてのパートナーシップ



全てのゴールとターゲットが密接不可分であり、統合的な形で取り組む。

